株主様向けアンケート

株主の皆様の声をお聞かせください

当社では、株主の皆様の声をお聞かせいただくため、アンケートを実施いたします。お手数ではございますが、アンケートへのご協力をお願いいたします。

下記ＵＲＬにアクセスいただき、
アクセスコード入力後に表示される
アンケートサイトにてご回答ください。
所要時間は5分程度です。

http://www.e-kabunushi.com
アクセスコード 4975

いいかぶ　検索

Yahoo!、MSN、exciteのサイト内にある検索窓に、いいかぶと4文字入れて検索してください。

空メールによりURL自動返信

kabu@wjm.jpへ空メールを送信してください。(タイトル、本文は無記入)
アンケート回答用のURLが直ちに自動返信されます。

携帯電話からもアクセスできます

ＱＲコード読み取り機能のついた携帯電話をお使いの方は、右のQRコードからもアクセスできます。

●アンケート実施期間は、本書がお手元に到着してから約2ヶ月間です。

ご回答いただいた方の中から抽選で薄謝（図書カード500円）を進呈させていただきます

e-株主リサーチ

※本アンケートは、株式会社エーツーメディアの提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。（株式会社エーツーメディアについての詳細http://www.a2media.co.jp）※ご回答内容は統計資料としてのみ使用させていただき、事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用することはありません。

●アンケートのお問い合わせ　TEL:03-5777-3900（平日 10:00～17:30）
「e-株主リサーチ事務局」　MAIL:info@e-kabunushi.com

PRINTED WITH SOY INK
地球環境に配慮した大豆油インキを使用しています。

株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
基準日	定時株主総会の議決権　3月31日 期末配当金　3月31日 中間配当金　9月30日
公告方法	電子公告により、当社ホームページ（http://www.eu.ebara.com/）に掲載いたします。なお、やむを得ない事由により、電子公告によることができないときは、日本経済新聞に掲載して行うものとします。
株主名簿管理人	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社　本店証券代行部
電話お問合わせ先・郵便物送付先	〒135-8722 東京都江東区佐賀一丁目17番7号 みずほ信託銀行株式会社　証券代行部 電話　0120-288-324（フリーダイヤル）
同取次所	みずほ信託銀行株式会社　全国各支店 みずほインベスターズ証券株式会社 本店及び全国各支店
証券コード	4975
金融商品取引所	東京証券取引所市場第一部

EBARA
荏原ユージライト株式会社
〒110-0016　東京都台東区台東4-19-9 山口ビル7
TEL: 03-3833-0321　FAX: 03-3833-5075
http://www.eu.ebara.com/

私たちの仲間の国花です。

株主・投資家のみなさまへ

第48期 年次報告書 2007.4.1 ― 2008.3.31

荏原ユージライト株式会社
証券コード：4975

ごあいさつ

荏原ユージライト株式会社
代表取締役社長
粕谷佳允

株主・投資家の皆様には益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

当社グループの当期の決算は、原油価格はもちろんのこと、金、白金などの貴金属だけでなく、銅、ニッケルなど当社の主要な製品の諸原材料が軒並み高騰し、収益低下の圧力を受け、厳しい経営環境の中で悪戦苦闘の経営判断を迫られました。

この1年を振り返りますと、上半期は昨年新設した総合研究所の移転に伴う諸費用や相次いで設立いたしましたアジア各国を中心とする現地法人の諸費用で販管費も上昇し、収益面を大きく圧迫いたしました。下半期は韓国、台湾の現地法人化に伴う売上高の3ヶ月欠落などもありましたが、海外子会社の売上増が次第に貢献するようになり、中間期で下方修正した目標を上回る結果となり、純利益も予定以上に計上することができました。特に、下半期はサブプライムローン問題などの金融不安により、当社グループでも円高の進行や株価低迷の影響を少なからず受けました。また内部統制の強化により、長期にわたる在庫製品の資産価値に対する厳正な評価による減損処理を行うなど、マイナス要因はありましたが、修正目標以上の結果が残せたことは、十分とは言えないまでもご評価頂けるのではないかと考え、今後も頑張ってまいりたいと思っております。

次に、当社グループの二つの主要業界であります自動車業界とプリント配線板業界の当期の営業動向につきまして、ご説明させて頂きます。

自動車業界は1年を通して、国内減速・海外好調と申し上げても過言ではありませんでした。当社の自動車のプラスチック部品にめっきするPOP（Plating on Plastics）用薬品は、今日では国内の売上を海外の売上が上回ることになり、この傾向は今後も継続するものと思います。

一方、プリント配線板に使用されるスルーホールめっきやビルドアップ用銅めっき薬品の売上も国内を海外が上回ることになり、日本の製造業が今直面している現実を反映したものとなっています。当社が相次いでアジア各国に現地法人を立ち上げた効果も次第に明確になるものと信じます。

2008年6月

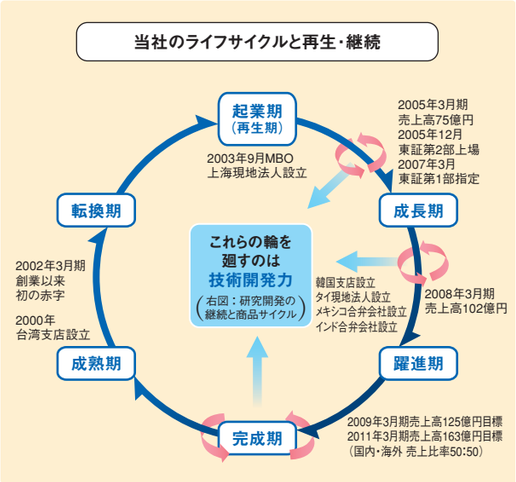
トップインタビュー

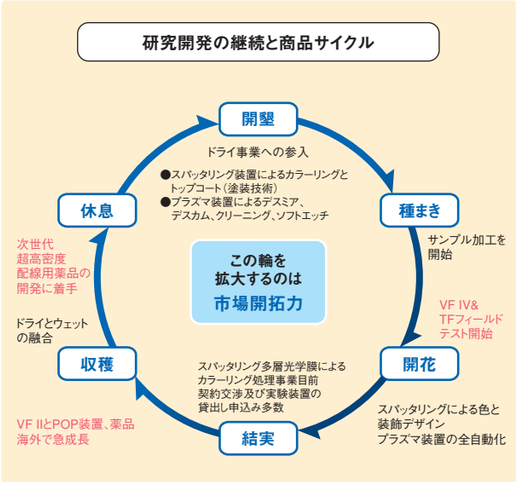
Q 現在の、貴社を取り巻く環境と今後の戦略についてお聞かせください。

A 当社は、2003年9月にMBO方式により荏原とエンソン（米国）との合弁会社から独立、再起業化を果たしました。2005年12月に東証第2部に上場し、2007年3月には第1部に指定されました。また、MBOからIPOを進める中で、相次いで海外拠点を設立しました。これらの急速な展開をもとに、2005年の売上高75億円を2010年には倍増する計画を発表し、同時に国内、海外の売上高を50：50にすべく努力することを、投資家の皆様へ約束しました。この目標を達成するためには、研究開発の成果と戦略的な市場開拓が重要なキーであると考え、いろいろ手を打ってきましたが、現時点ではほぼ予定どおり進行しております。

当社は現在、再び成長期から躍進期へ向かっている段階にあると思います。

しかし、会社は躍進期から完成期、成熟期を経て転換期を迎えます。この転換期に画期的な新技術が生まれないと会社の寿命は尽きるということになります。これを乗り越えるためには、早くから準備をすることが重要かと思います。そこで当社はドライ事業への参入を決意いたしました。当社は従来から、めっきを中心としたウェット技術の専門メーカーとして歩んでまいりましたが、「ドライとウェットの融合」を目指し、新たな挑戦をいたします。

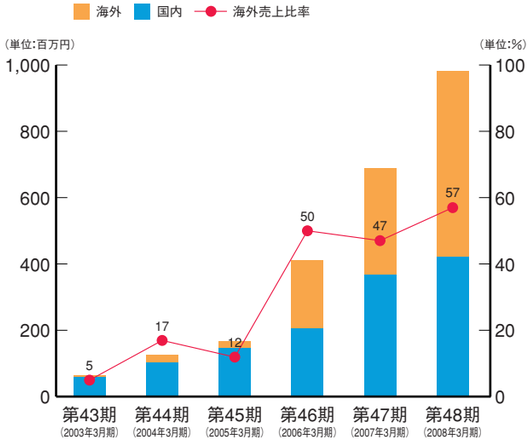




Q プリント配線板における「ドライにウェットの融合」への期待と業績の現状はいかがでしょうか？

A 当社開発薬品の真価を発揮し、ウェットプロセスとドライプロセスの融合が良好な結果を生むと期待しております。ビルドアップ基板のビアフィリング用硫酸銅めっきプロセス「VFシリーズ」の売上高は年々拡大しており、海外売上が国内を上回る傾向が見られ、特に台湾、韓国の売上増が顕著になっております。現在、あらたにスルーホールフィリング用硫酸銅めっきや、セミアディティブ用硫酸銅めっき薬品プロセスの開発が完了し、発売を開始いたしました。

ビアフィリング用硫酸銅めっき薬品の売上推移

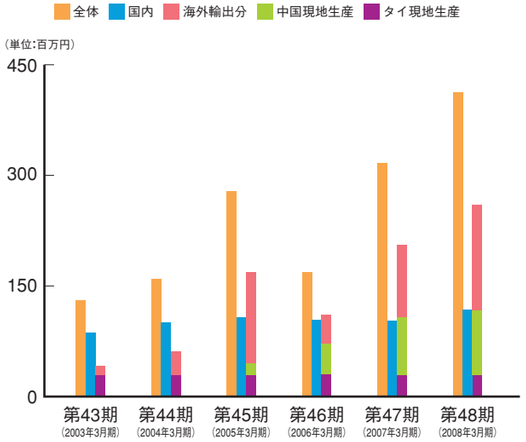


Q 自動車業界での業績と、新たな取り組みについてお聞かせください。

A 国内外において、POP用薬品と大型装置の受注が相次いでおり、POP用薬品の売上高についても日本の自動車メーカーの生産構成と同様、海外の比重が高くなっております。今後も１つの重要な柱として積極的に取り組んでまいります。

また、薬品と装置のセット販売から、環境問題に配慮した水処理を含めた総合ビジネスを展開中です。

POP用めっき薬品売上推移



今後の当社の飛躍の鍵を握るドライ事業の具体化についてご説明申し上げます。

プラズマ装置

プラズマによるプリント配線板めっき前処理用（デスミヤ、デスカム、ソフトエッチ）の各種環境対応型装置の開発に成功し、日本、台湾から多数の引き合いを頂いております（世界特許申請中）。

スパッタリングによるカラーリング事業

世界に稀有な多層光学膜用真空スパッタリング装置による携帯電話、デジタル家電、及び自動車各種部品へのカラーリング事業を本格化させ、台湾、韓国等の大手携帯電話メーカーとの合弁事業として処理事業を計画推進中です（詳細は装置特集ページを参照）。

私たちは表面処理の4つの分野であるウェット処理、ドライ処理、塗装処理、熱処理の総合表面処理メーカーとして成長します。

最後に株主の皆様へのメッセージをお願いします。

私は、常々社員に「夢・希望・勇気を合言葉に、仕事をしましょう！」と提言しております。「熱と誠」の精神、即ち何事にも情熱をもってあたり、誠心誠意を尽くしてやることこそが、その成功の秘訣だと学び、これを当社の社是として定めているのです。

私は、企業を経営する真の目的は、良質で創造的な製品をつくり、継続的に顧客を満足させ、株主・投資家の皆様には利益を生じさせ、そして社員の生活の質を向上させることであると確信しております。

もちろん、私たちをサポートしてくれる取引先、及び産・官・学の皆様のご協力を得て、社会的責任を果たしたいと真摯に思っております。

最後に、本年10月に会社のロゴマークを変更するべく、表面処理総合メーカーとして成長していく当社の姿を表現するよう、デザイン会社にお願いしていることをご報告申し上げます。

当期は、当社グループが将来に向けて益々発展するための大きな負担を背負い込んでまいりまして、投資家、株主の皆様にさぞやご心配をおかけしたのではないかと心苦しく存じますが、やっとそのご心配を払拭できる確信をもてるようになりました。

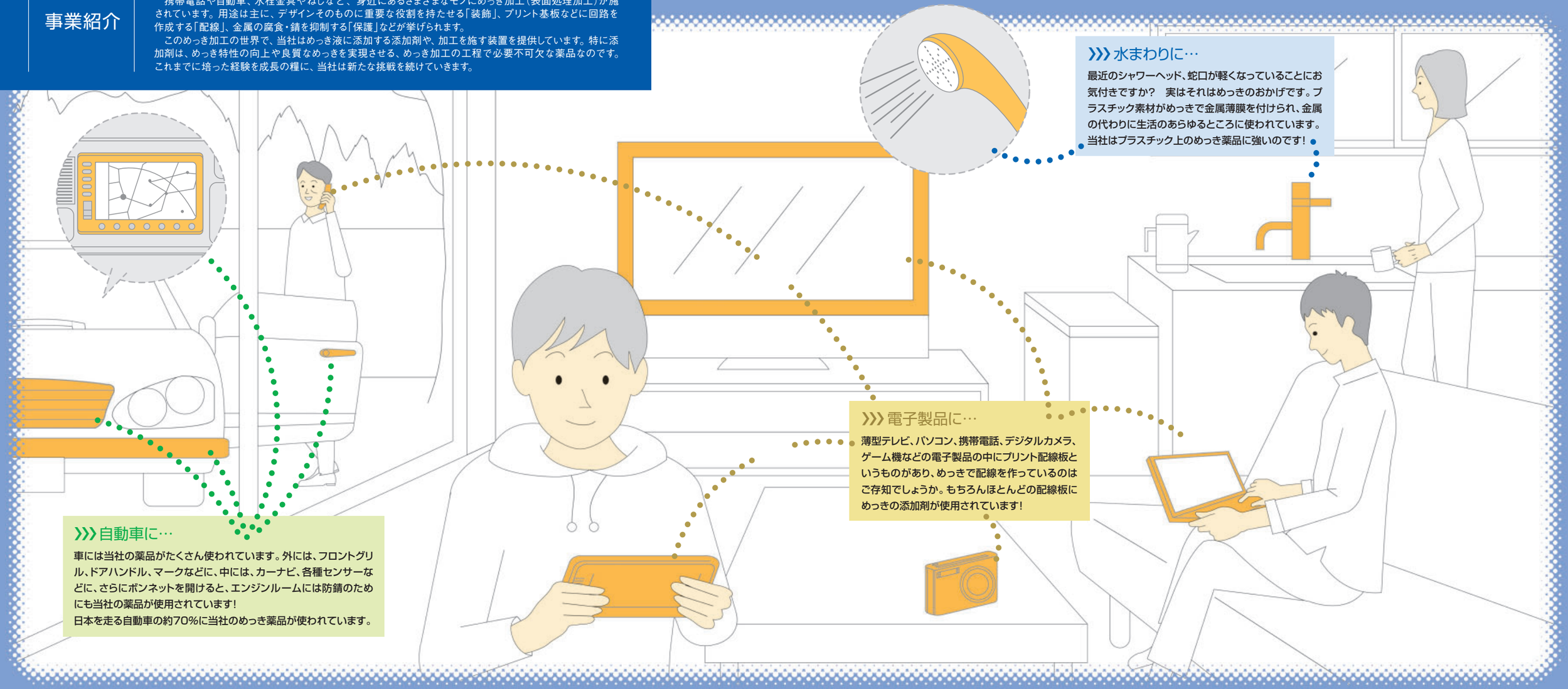
一方、新規事業としてここ2～3年ドライ分野への研究投資を行いましたが、来期は早々にも真に花開かんとしており、近々何らかのご報告ができるものと思います。当社は、新たに新3ヵ年経営計画を発表し、それに向けまして、全従業員一丸となって営業や研究開発、生産の効率化などに取り組み、利益の一層の確保に邁進する所存でございますので、投資家、株主の皆様のご理解とご支援、ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

事業紹介

実は身近な、荏原ユージライトです。

携帯電話や自動車、水栓金具やねじなど、身近にあるさまざまなモノにめっき加工（表面処理加工）が施されています。用途は主に、デザインそのものに重要な役割を持たせる「装飾」、プリント基板などに回路を作成する「配線」、金属の腐食・錆を抑制する「保護」などが挙げられます。

このめっき加工の世界で、当社はめっき液に添加する添加剤や、加工を施す装置を提供しています。特に添加剤は、めっき特性の向上や良質なめっきを実現させる、めっき加工の工程で必要不可欠な薬品なのです。これまでに培った経験を成長の糧に、当社は新たな挑戦を続けていきます。



自動車に…

車には当社の薬品がたくさん使われています。外には、フロントグリル、ドアハンドル、マークなどに、中には、カーナビ、各種センサーなどに、さらにボンネットを開けると、エンジンルームには防錆のためにも当社の薬品が使用されています！
日本を走る自動車の約70%に当社のめっき薬品が使われています。

電子製品に…

薄型テレビ、パソコン、携帯電話、デジタルカメラ、ゲーム機などの電子製品の中にプリント配線板というものがあり、めっきで配線を作っているのはご存知でしょうか。もちろんほとんどの配線板にめっきの添加剤が使用されています！

水まわりに…

最近のシャワーヘッド、蛇口が軽くなっていることにお気付きですか？　実はそれはめっきのおかげです。プラスチック素材がめっきで金属薄膜を付けられ、金属の代わりに生活のあらゆるところに使われています。当社はプラスチック上のめっき薬品に強いのです！

スパッタリングを利用したカラーリング

光の干渉を利用した多層膜でのカラーリング

メタリック色調をプラスチック、ステンレス、アルミそしてマグネシウム素材にも成膜可能です。

静電気による誤作動防止のため、プラスチックには高歩留まりの静電防止膜の処理も可能です。

各種トップコーティングを準備しており、金属にもプラスチック等用途に応じ高品質なトップコートが可能です。プラスチックには鉛筆硬度でH5程度に、金属にはH9以上も可能です。

当社では表面処理事業の一環として2つのドライ事業を始めております。その1つがこのスパッタリング技術を利用したカラーリング事業です。

この技術は光の干渉を利用した技術です。その技術に要求されるスパッタリング装置は非常に高い均一成膜性能が要求されます。そのような装置は市販されていないため当社では自社で開発することにいたしました。

開発中の装置はプラスチックにも金属にも成膜できるよう、低温成膜・高温成膜の両方の成膜が可能で、また、携帯電話のケースばかりでなく化粧品やPDA等さまざまな製品形状、大きさに対応可能な装置といたしました。

この装置を使用して、お客様からの受託加工を行うべく準備しております。

年度内受託生産の開始

台湾や韓国等の大手携帯部品メーカーからの引き合いが多数！

カラーリング試験

プラズマ表面処理装置『大海』

当社が展開していますドライ事業の1つとしてプラズマを利用したプラズマ表面処理装置『大海』があります。

近年、プリント配線板分野では微細化が進み、製品の高信頼性の要求が高くなってきており、また、装飾分野においても新しい材料への表面処理が望まれています。このような背景からプラズマ処理技術への期待と大きな市場が見込まれています。

特に、プリント配線板分野では、次世代以降の製品において、このプラズマの技術を導入しなければ技術課題の解決が非常に困難な状況となってきており、国内外メーカーの積極的な導入検討が始まっております。

フルオートシステムの開発も完了し、大量生産ラインへの導入にも対応。

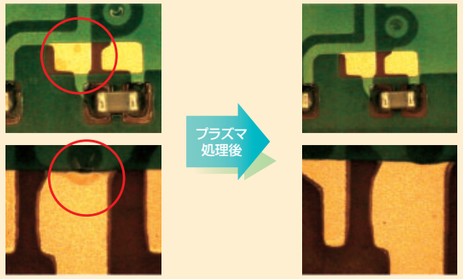
当社装置は他社に比べ、プラズマ生成効率、処理均一性が高く、環境負荷の側面からもCF4ガスの除害ユニット搭載により大きなアドバンテージを有しています。

装置特長

- 最適設計により処理信頼性が高い
- 処理コスト削減が期待できる
- 製品の不良率の大幅な低減
- 環境負荷の低減を実現

処理例

● クリーニング処理



● デスカム処理

プラズマ処理なし　　プラズマ処理あり

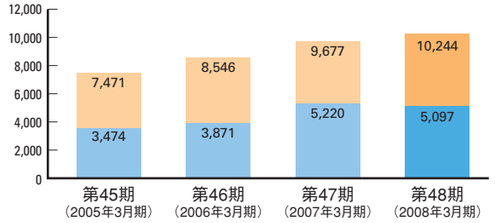
● デスミア処理

プラズマ処理なし　　プラズマ処理あり

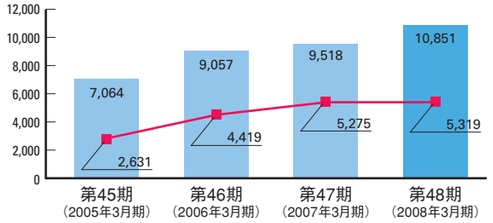
第48期 決算のポイント

財務ハイライト（連結）

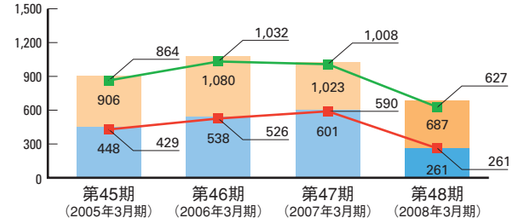
●**売上高**（単位:百万円）



●**総資産、純資産**（単位:百万円）

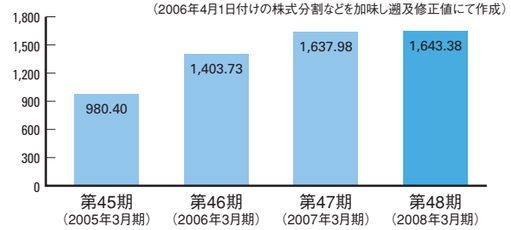


●**営業利益、経常利益**（単位:百万円）

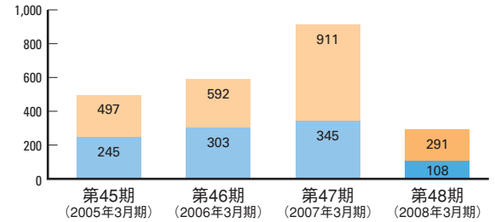


●**1株当たり純資産額**（単位:円）

（2006年4月1日付けの株式分割などを加味し遡及修正値にて作成）

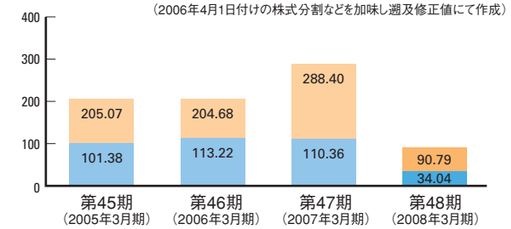


●**中間及び当期純利益**（単位:百万円）



●**1株当たり中間及び当期純利益**（単位:円）

（2006年4月1日付けの株式分割などを加味し遡及修正値にて作成）



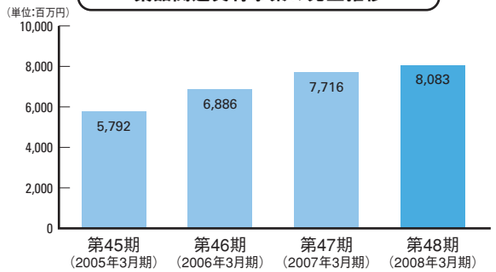
※2007年3月期には中央研究所土地売却による特別利益が計上されております。
※現地法人化に伴い、2008年3月期は台湾と韓国の2008年1月、2月、3月の売上（約3億52百万円）が連結されていません。

セグメント別概況

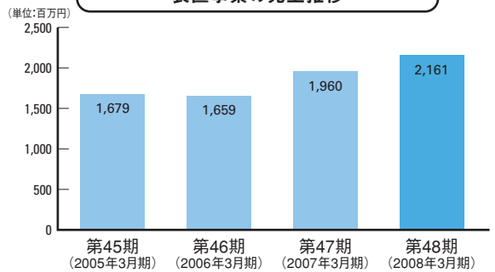
当社グループは、めっきを中心とする表面処理薬品と装置を、自動車、建材、水栓金具、プリント配線板、電子部品、半導体等のさまざまな分野の業界に提供し、表面処理技術の発展に貢献しております。特に、生産性や管理技術の向上について総合的な提案を行い、顧客の要望にマッチした開発を通して、より確かな製品を提供しております。

当社グループにおける事業の種類別セグメントは、【薬品関連資材事業】と【装置事業】に区分しており、各事業の主要な製品についてご紹介いたします。

薬品関連資材事業の売上推移



装置事業の売上推移



薬品関連資材事業の当期の概況

自動車産業におきまして、中国市場における樹脂めっき用の薬品の販売が好調に推移したことにより、基幹分野向け薬品の売上が増加いたしました。また、プリント配線板の業界では、携帯電話、パソコン、薄型テレビ、デジカメ、家庭用ゲーム機等の販売が好調で、MPUパッケージ基板及びマザーボード向けのビルドアッププリント配線板用めっき薬品が伸長しました。この結果、売上高は80億83百万円（前連結会計年度比4.7%増）となりました。

装置事業の当期の概況

国内においては、自動車部品向けやプリント配線板用めっき装置の拡販に注力し、装置と薬品の一括受注という当社の強みも発揮し、新規客先の獲得ができました。海外におけるめっき装置の拡販にも注力しましたが、売上には至りませんでした。この結果、売上高は21億61百万円（前連結会計年度比10.3%増）となりました。

連結財務諸表（要旨）

連結貸借対照表

（単位：千円）

区分	当期 2008年3月31日現在	前期 2007年3月31日現在
【資産の部】		
流動資産	**6,540,675**	**5,912,237**
現金及び預金	2,064,005	1,648,351
受取手形及び売掛金	3,218,718	2,984,722
たな卸資産	972,261	963,162
繰延税金資産	168,988	226,444
その他	126,188	95,888
貸倒引当金	△ 9,488	△ 6,331
固定資産	**4,311,000**	**3,606,245**
*1 有形固定資産	3,140,972	2,855,562
無形固定資産	25,452	23,820
*2 投資その他の資産	1,144,575	726,862
資産合計	**10,851,675**	**9,518,483**

*1 有形固定資産は、主に総合研究所の研究設備及び名古屋支店社屋の取得により285百万円増加しました。
*2 投資その他の資産は、主に投資有価証券の取得により417百万円増加しました。
*3 新たに資金調達を行い、一年内返済予定長期借入金は348百万円、長期借入金は847百万円、それぞれ増加しております。
*4 名古屋支店の社屋をリースにより取得したものであります。

区分	当期 2008年3月31日現在	前期 2007年3月31日現在
【負債の部】		
流動負債	**3,653,762**	**3,412,710**
支払手形及び買掛金	1,888,102	1,971,647
短期借入金	187,008	140,000
*3 一年内返済予定長期借入金	648,000	300,000
*4 リース債務	5,570	—
未払法人税等	30,766	189,262
賞与引当金	210,153	233,520
前受金	321,689	117,475
その他	362,473	460,806
固定負債	**1,878,395**	**829,874**
*3 長期借入金	1,147,000	300,000
*4 リース債務	183,830	—
退職給付引当金	439,042	411,156
その他	108,522	109,383
負債合計	**5,532,158**	**4,242,585**
【純資産の部】		
株主資本	**5,350,912**	**5,216,493**
資本金	910,562	900,812
資本剰余金	863,211	853,461
利益剰余金	3,577,730	3,462,811
自己株式	△ 592	△ 592
評価・換算差額等	**△ 61,863**	**12,578**
その他有価証券評価差額金	△ 103,337	△ 6,565
為替換算調整勘定	41,473	19,144
少数株主持分	**30,468**	**46,825**
純資産合計	**5,319,517**	**5,275,897**
負債純資産合計	**10,851,675**	**9,518,483**

連結損益計算書

（単位：千円）

区分	当期（自 2007年4月 1日 至 2008年3月31日）	前期（自 2006年4月 1日 至 2007年3月31日）
売上高	**10,244,860**	**9,677,490**
売上総利益	**4,616,298**	**4,496,151**
販売費及び一般管理費	**3,929,126**	**3,472,452**
営業利益	**687,172**	**1,023,698**
経常利益	**627,703**	**1,008,779**
税金等調整前当期純利益	**573,904**	**1,545,902**
当期純利益（注）	**291,280**	**911,319**

（注）前期は特別利益として、固定資産売却益823百万円を計上しております。

連結キャッシュ・フロー計算書

（単位：千円）

区分	当期（自 2007年4月 1日 至 2008年3月31日）	前期（自 2006年4月 1日 至 2007年3月31日）
営業活動によるキャッシュ・フロー	**382,311**	**548,932**
投資活動によるキャッシュ・フロー	**△ 1,251,307**	**△ 971,291**
財務活動によるキャッシュ・フロー	**1,078,440**	**△ 279,348**
現金及び現金同等物に係る換算差額	**△ 2,615**	**5,961**
現金及び現金同等物の増加額（△減少額）	**206,828**	**△ 695,746**
現金及び現金同等物の期首残高	**1,648,351**	**2,344,097**
現金及び現金同等物の期末残高	**1,855,179**	**1,648,351**

連結株主資本等変動計算書（自 2007年4月1日　至 2008年3月31日）

（単位：千円）

	株主資本					評価・換算差額等			少数株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	為替換算調整勘定	評価・換算差額等合計		
2007年3月31日残高	**900,812**	**853,461**	**3,462,811**	**△ 592**	**5,216,493**	**△ 6,565**	**19,144**	**12,578**	**46,825**	**5,275,897**
連結会計年度中の変動額										
新株の発行	9,750	9,750			19,500					19,500
剰余金の配当			△ 176,362		△ 176,362					△ 176,362
当期純利益			291,280		291,280					291,280
株主資本以外の項目の連結会計年度中の変動額（純額）						△ 96,772	22,329	△ 74,442	△ 16,356	△ 90,798
連結会計年度中の変動額合計	**9,750**	**9,750**	**114,918**	**—**	**134,418**	**△ 96,772**	**22,329**	**△ 74,442**	**△ 16,356**	**43,619**
2008年3月31日残高	**910,562**	**863,211**	**3,577,730**	**△ 592**	**5,350,912**	**△ 103,337**	**41,473**	**△ 61,863**	**30,468**	**5,319,517**

単体財務諸表（要旨）

単体貸借対照表

（単位：千円）

区分	当期 2008年3月31日現在	前期 2007年3月31日現在
【資産の部】		
流動資産	5,650,985	5,144,165
固定資産	4,972,493	4,220,735
有形固定資産	2,947,148	2,796,100
無形固定資産	5,220	5,847
投資その他の資産	2,020,124	1,418,787
資産合計	10,623,478	9,364,900
【負債の部】		
流動負債	3,545,731	3,341,433
固定負債	1,871,655	829,874
負債合計	5,417,387	4,171,307
【純資産の部】		
株主資本	5,309,429	5,200,158
評価・換算差額等	△ 103,337	△ 6,565
純資産合計	5,206,091	5,193,592
負債純資産合計	10,623,478	9,364,900

単体損益計算書

（単位：千円）

区分	当期（自 2007年4月 1日 至 2008年3月31日）	前期（自 2006年4月 1日 至 2007年3月31日）
売上高	9,708,173	9,468,537
売上総利益	4,153,372	4,319,044
販売費及び一般管理費	3,481,525	3,276,812
営業利益	671,846	1,042,232
経常利益	608,058	1,007,182
税引前当期純利益	559,921	1,544,306
当期純利益	266,133	910,566

単体株主資本等変動計算書（自 2007年4月1日　至 2008年3月31日）

（単位：千円）

	株主資本					評価・換算差額等	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計		
2007年3月31日残高	900,812	853,461	3,446,476	△ 592	5,200,158	△ 6,565	5,193,592
事業年度中の変動額							
新株の発行	9,750	9,750			19,500		19,500
剰余金の配当			△ 176,362		△ 176,362		△ 176,362
当期純利益			266,133		266,133		266,133
株主資本以外の項目の事業年度中の変動額（純額）					―	△ 96,772	△ 96,772
事業年度中の変動額合計	9,750	9,750	89,771	―	109,271	△ 96,772	12,498
2008年3月31日残高	910,562	863,211	3,536,247	△ 592	5,309,429	△ 103,337	5,206,091

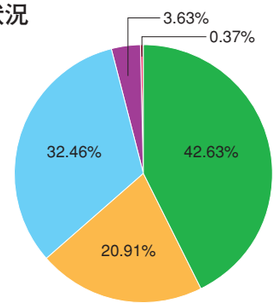
株式の概況／会社概要（2008年3月31日現在）

株式の状況

発行済株式総数 …… 3,218,500株
株主数 …… 3,339名

所有者別株式分布状況

- その他法人　42.63%
- 外国法人等　20.91%
- 個人・その他　32.46%
- 金融機関　3.63%
- 金融商品取引業者　0.37%



大株主の状況

株主名	持株数（株）	出資比率（%）
ゴールドマン・サックス・インターナショナル	431,200	13.39
粕谷　佳允	153,900	4.78
エフ ビー エフ 2000，エル．ピー．	113,500	3.52
日本高純度化学株式会社	110,000	3.41
荏原実業株式会社	100,000	3.10
中央化学産業株式会社	82,600	2.56
栄電子工業株式会社	80,000	2.48
株式会社ユニゾーン	80,000	2.48
神谷理研株式会社	80,000	2.48
清水鍍研材株式会社	79,700	2.47

（注）1. 当社は自己株式を100株所有しております。
2. 出資比率は、小数点以下第3位を切り捨てて表示しております。

商　　号　荏原ユージライト株式会社

本社所在地　東京都台東区台東4丁目19番9号 山口ビル7

設　　立　1968年（昭和43年）4月1日

資 本 金　910,562,500円

事 業 所

【国内】
大阪支店　名古屋支店　高崎支店　浜松営業所
九州営業所　総合研究所　新潟工場

【連結子会社】
- 荏原ユージライト（上海）貿易有限公司
  広州分公司／蘇州分公司
- 台湾荏原ユージライト股份有限公司
- EBARA-UDYLITE（KOREA）CO.,LTD.
- EBARA-UDYLITE（ASIA-PACIFIC）CO.,LTD.
- EBARA-UDYLITE AMERICA,S.A.DE C.V.
- EBARA-UDYLITE VIETNAM CO.,LTD.

【関連会社】
- PROGRESSIVE EU CHEMICALS PVT. LTD.

役員一覧（2008年6月27日現在）

代表取締役社長	粕谷　佳允
専務取締役 専務執行役員	大木　繁司
専務取締役 専務執行役員	小澤　惠二
常務取締役 常務執行役員	上谷　正明
取締役常務執行役員	遠藤　豊春
取締役常務執行役員	中澤　隆司
取締役常務執行役員	君塚　亮一
執行役員	早川　修司
執行役員	吉川　豊
執行役員	中村　憲二
常勤監査役	大野　寛二
社外監査役	伴　峰夫
社外監査役	岸　富也
社外監査役	髙中　正彦

従業員数　連結 286名（41名）　単体 219名（12名）

（注）臨時雇用者数（パートタイマー、人材会社からの派遣社員を含みます）は、年間の平均人員を（　）外数で記載しております。